

モデル事業名	伊万里市川内野における黒米等の商品開発・環境に優しい生活の実践によるコミュニティ創生事業
活動団体名	NPO 法人 伊万里はちがめプラン
ホームページ	http://hachigame.sagafan.jp/
所属／ 担当者名	理事長 福田 俊明（問合せ先：）
連絡先	電話番号：0955-22-4058 Eメールアドレス：hachigame@orion.ocn.ne.jp
活動地域	佐賀県伊万里市東山代町川内野地区

● 活動地域の概要

川内野地区は、伊万里市の中心部から約20km、標高300～400mの山村にあり、長崎県松浦市に隣接する中山間地域である。本地区においても、かつて多くの山村地域と同様に若者の農業離れや、担い手の高齢化等による集落の活力の低下に悩んでいた。このことに危機感をもった農業後継者たちが平成6年に「コメCOME倶楽部」を結成し、平成8年から古代米の「黒米」栽培を開始した。これを契機として、「むらづくり」に対する機運が高まり、若者の定住を目指すむらづくりの目標を策定し、「一人一人がむらづくりの主役」となって、集落の婦人会・老人会・子供会等とも連携した自主的な活動が活発に展開されている。

このような活動から「コメCOME倶楽部」に次いで、黒米の加工・商品開発を行う女性による「夢耕房 農産物加工グループ」の立上げや、「畑の中のレストラン」「夢の市」「農業体験スクール」等の、都市住民との交流事業等が新たに展開されている。その結果、地区の人口も微減・横ばいとなり、現在65世帯210人（H21年2月末）となっている。



【位置図】



【中山間地域の川内野集落】

● 活動地域の課題

川内野地区の今までの活動を踏まえて、これからのコミュニティ創生によるむらづくりを推進するための課題としては、次の5つがあげられている。

- 1) 川内野の安全安心な食づくり（黒米の拡大、有機栽培の普及等）
- 2) 環境に優しい暮らしづくり（生活環境の改善、廃棄物の減量化等）
- 3) 都市農村交流の推進（グリーンツーリズム、エコツーリズム等）
- 4) 周辺地区と市内グループ等との連携（日南郷の特産品、農業体験スクール等）
- 5) 川内野の世代を越えた活動担い手の育成（夢の市開催等のイベント）

● 活動の内容

・平成20年度

- 1) 黒米等農産物の商品開発・販路拡大事業
- 2) 食品廃棄物の堆肥化、BDF化試行事業
- 3) 家庭排水浄化の社会実験事業
- 4) ホームページの作成・運用

・平成21年度

- 1) 地区住民による生ゴミ堆肥づくり及び黒米・菜の花・日南郷茶・アスパラ等の有機栽培実証事業
- 2) 水源地における家庭排水浄化の社会実験及び浄化液「えひめAI」の生産事業化計画調査
- 3) 廃食油の回収・BDF化（はちがめプランの設備活用）及び地区の可燃ごみのガス化による「自前エネルギー」づくり事業計画調査
- 4) 農家民宿による地域間交流事業（農村体験交流）の地区住民の意向調査及びそのモニター事業

（直近1年間の進捗など）

- ・今年度もはちがめ堆肥を施し、アスパラ、イチゴ、キュウリ、菜の花等の栽培を継続している。6月の菜種の収穫は2反から約400kg程あり自家製菜種油が好評で、今年は5反の作付となった。新しくアイスパラントを導入し栽培を開始した。
- ・新たに市内の中山間地である炭山・中田地域（46世帯160人）と連携し堆肥を使って菜の花と棚田米の生産を開始した。

● 活動の成果

平成 20 年度

- 1) 黒米等農産物の商品開発・販路拡大事業：当地域が進める古代米「黒米」の特性を生かし焼き菓子の「黒米クッキー」と「黒米ケーキ」の試作研究を行うと共に、黒米のレシピを編集・印刷し、市内各方面に配布、PR を行った。
- 2) 食品廃棄物の堆肥化、BDF 化試行事業：今年度は川内野での「はちがめ堆肥」の試用を進めるため、屋根付き堆肥置き場が確保され、アスパラ、冬野菜、茶木、黒米に試用した。
- 3) 家庭排水浄化の社会実験事業：当社会実験で用いた水質浄化剤は「えひめ AI」商品名「源流きらり」を全戸に配布し記録を取った結果 80%は効果があつた。
- 4) ホームページの作成・運用：はちがめプランのホームページに「新たな公」の取り組みを紹介するホームページを開設した。



アスパラの栽培実験

平成 21 年度

- 1) 地区住民による生ごみ堆肥づくり及び黒米、菜の花、日南郷茶、アスパラ等の有機栽培実証事業：はちがめ堆肥を使う黒米栽培面積は 1 反程度であるため面積を拡大する。また、はちがめ堆肥の効果が確認されたのでイチゴ、アスパラ、其の他の野菜にも普及している。菜の花栽培は、「ななしきぶ」を 2 反直播と移植栽培を行い約 400k の収穫があつた。
- 2) 水源地における家庭排水浄化社会実験及び浄化液「えひめ AI」の生産事業化計画調査：水質が問題になる夏期に「源流きらり」を配布、結果 92%に効果があつた。
- 3) 廃食用油の回収・BDF 化及び地区の可燃ごみのガス化による「自前エネルギー」づくり事業計画調査：各家庭から集めた廃食用油をはちがめプランで BDF 化しトラクターで試行し、皆さんにも周知を図った。可燃ごみのガス化は、集落内で収集場所が 1 ヶ所となっているので原料供給の見通しが立った。
- 4) 農家民泊による地域間交流事業の地区民の意向調査及びそのモニター事業：農家民泊の意向調査を行った結果、10 戸の農家の参加意向があり、「川内野農家民泊連絡会」を設立した。モニターは福岡から 4 組 12 名の民泊を実施し好評であつた。



イチゴ栽培ハウス：堆肥の施肥

結果として

1. はちがめ堆肥活用による黒米の特別栽培の認証を得ることができ、農産物直売所で好評である。
2. 伊万里市にグリーンツーリズム協議会が立ち上がりコメ COME 倶楽部の幸松氏が事務長に選ばれると共に、「川内野農家民泊連絡会」が設立され一歩前進した。
3. はちがめ堆肥の効果が口コミで広がり、各地から活動に対する問い合わせがあつている。
4. 市内の別の中山間地、炭山・中田地域（46 世帯 160 人）から連携の申し込みがあつた。（棚田稲作）

・直近 1 年間の成果など

1. 川内野地区との連携、はちがめ堆肥を活用した農産物の生産
はちがめ堆肥を施し、今年度も黒米、アスパラ、イチゴ、キュウリ、菜の花等の栽培を継続している。菜の花については、前年度分の菜種油が好評で今年は 5 反程の作付となった。また新しくアイスプラント栽培を導入し特産品として売り出し中である。
2. 新たな中山間地と連携、棚田を活用し景観と棚田米による地域おこし事業
はちがめ堆肥を市内の炭山、中田地域（46 世帯 160 人）の棚田に施し、菜の花栽培を行ない同棚田で生産した米を炭山菜の花米として販売の計画です。



菜種の収穫作業

● 今後の課題及び展望

・課題

- 1) 住民の生ごみ堆肥づくりは、堆肥舎の建設費等の可能性を再検討することが課題である。
- 2) 「えひめ AI」の自前生産は、経済性のある生産システムを構築し志佐川流域地域に普及を図るため、諸事例などにより実現化に向けて川内野集落内の候補地など取り組みを加速化することが課題である。
- 3) 廃食用油の回収と BDF のトラクター利用が確認され、全市的に BDF 事業を取り組みとの連携を図ることが課題となる。小規模な可燃ごみガス化プラント導入の可能性はあるが、発熱量や熱源利用、コスト面など課題がある。
- 4) 都市農村交流における農家民泊の必要性は全国的に高まっており、その一翼を担うため都市ニーズの把握と、農家民泊の情報の発信など、交流相互の情報チャンネルの形成が課題である。

・展望

- 1) 有機栽培の普及を加速させて食の安全安心を対外的にも PR し、他の地区や加工関連業種とも連携し農商工連携の一つのモデルとして形成することを目標としていきたい。
- 2) 「えひめ AI」の利用普及は「環境に優しい暮らし」の代表例であるため、生産事業化施設を建設し、源流地域のみならず市内へ普及させて、全市民が「環境に優しい生活」を享受できる暮らしへの変革を図っていきたい。
- 3) 廃食用油の回収と BDF は、全市的な事業と連携を図ることで実現化が図ることができ、可燃ごみガス化は、熱利用として農家民泊の共同浴場を整備すれば「環境に優しい暮らし」の仕上げとなる。
- 4) 農家民泊の魅力に「有機栽培での食材」「環境に優しい暮らし」が加わることで、新たな魅力が創出される。

● その他（自由記述）

- ・はちがめプランが長年培ってきた活動のノウハウと技術をマニュアル化し、九州各地の希望団体に対して移転・支援事業を行ない食資源循環による地域の活性化を進めている。